

六華ぞ窓に

(平成七年度寮歌)

宇野直哉君 作歌

永田将人君 作曲

一

六華ぞ窓に刻まれる
灯灯ともされて
家家の街に散るほど
まみえんとすれば
迷走の土と初なる乙女
鈍き銀なる空の下
暖かき片隅求むる若人等

二

時効なき戦争裂かれたる
一会の愛の光芒と
時代に漉の沈むを見つつ
新興の今何かを思う
世にふる柳の漠緑
岸に萌えただよい
しだれて音もなく

三

白き岩肌かいなとり
登りて伝う水の城
折しも廠の潤い映えて
光の花の冠受くを見ゆ
この灼熱よこの碧水よ
たどりこし我等が
魂まで飛沫せよ

四

別るる道を限りとて
露けき草にさし入るも
月日に添えてえうち紛れず
思い乱るる面影に添う
友の一言軽からず
肝胆相照らしき
月影燦然と

五

残照長く尾を引けば
安らぎ満ちて夜の声
さらば我らが土中の碧の
その重みこそ出会いし歓喜
新たな一歩しるしつつ
忘るまじ清き
華かなる憧れを